点検・評価　長所と問題点

本学で学ぶ「情報」は極めて多様なものであり，コンピュータは本学で情報を学ぶ範囲の一つにすぎない。しかし，受験生の本学に対するイメージが「情報＝コンピュータ」一辺倒になる傾向があることは，多様な学生を受け入れたい本学からは功罪半ばするところである。

将来の改善・改革に向けた方策

建学の精神，教育理念，学生指導の理念については，ここ数年，特に力を入れて広報してきており，次第に高校にも浸透してきている。今後も大学案内，Ｗｅｂ，高校訪問などを用いて本学の教育理念の浸透を図り，これに魅力を感じた志願者の増加を図っていく。

（２）入学者受け入れ方針と入学者選抜方法，カリキュラムとの関係

現状の説明

各学科がカリキュラムと整合性のあるアドミッションポリシーを志願者に明示している。また推薦系入試では，学科ごとに入学後の学科の学びに適した推薦資格条件を定め選抜方法に工夫をしている。さらに，一般入試では理系色の強い学科のために試験科目に数学を採用しており，後期入試では情報システム学科において数学を必須科目とするなど，入学後の学習に困らない配慮をした入学者選抜を実施している。

点検・評価　長所と問題点

本学には文系から理系まで多様な４学科があるため，各学科のアドミッションポリシーとカリキュラムの関係が志願者にとってわかりにくい部分がある点が問題点である。

将来の改善・改革に向けた方策

今後は，複合的な学科を中心にアドミッションポリシーとカリキュラムとの関係を志願者にわかりやすくする工夫が必要である。

３　入学者選抜の仕組み

（１）入学者選抜試験実施体制の適切性

現状の説明

学生募集方法，入学者選抜方法及び合格者決定の最終決定は教授会で行われる。

入試に関する組織としては，入試委員会（学長，副学長，学部長，大学院研究科委員長，各学科長，入試問題調整委員長，入試検討委員長で構成），入試選考委員会（学長，副学長，学部長，各学科長，入試検討委員長で構成），入試問題調整委員長，入試検討委員会（委員長と原則各学科教員２名で構成）が置かれている。

入試制度，入試要項，選抜方法に関する検討は入試検討委員会が行い，入試委員会，教授会で決定する。入試に関する広報は，広報委員会で検討し，入試・広報課を中心に実施する。入試問題出題は入試問題調整委員長が，出題責任者及び出題者を決定・実施する。

マークシートの読みとりなど機械処理は，学部長，情報サービスセンター長の立会いのもとに行われる。入試の判定は，各学科会，入試選考委員会を経て教授会で最終決定される。

入試時（期間）は，学長が入試本部長，学部長が同代理として全学的な体制が取られ，事務局では，入試実行委員会が組織され全事務局で実施をサポートする。各試験場は，各試験場責任者及び同事務責任者の管理により運営される。教員は全員で試験監督を分担する。この他，願書受付から入学手続に至る事務処理については，入試・広報課が担当している。

点検・評価　長所と問題点

入試に関する組織体制は十分なものと評価できる。問題点としては，志願者募集に関する業務の多様化，拡大化状況から，入試・広報担当事務部門の人手不足がある。

将来の改善・改革に向けた方策

本学にとって今後，志願者募集，大学広報の重要性がますます高まっていく。このため，専門スタッフの拡充・整備方策が必要である。

（2）入学者選抜基準の透明性

現状の説明

一般入試については，原則として総合点のみを選抜の基準としている。推薦入学については，全学的に統一した基準を設定しており，特に，面接については，その公平性を維持するため学科共通質問項目の設定，各要素の判断基準の統一化を行っている。

点検・評価　長所と問題点

本学における入学者選抜の基準は，一般入試はもとより他の選抜制度についても極めて客観的なものであり，しかも入試検討委員会，入試委員会，教授会と３段階で確認されたものである。よって，その透明性は極めて高いと評価できる。この結果，原則として，受験生の学力・能力・資質以外の要件が入学者選抜に影響することはない。

将来の改善・改革に向けた方策

入学者選抜の目的は，本学の教育の理念に沿って教育するに最適な者を選抜することにある以上，今後，建学の精神とアドミッションポリシーより選択基準を煮詰めたうえで，選抜基準を学外にも事前公表することが必要であると考える。